

『EuroShop 2017 Report-3』



『遠隔操作』

IoTをはじめ、テクノロジーが生活全体に拡がって行くスマホファーストで豊かなライフスタイルを実現するために、照明器具も移動させたり照射角度を変えたり調光できたり、大変だった脚立作業が不要になってくる。



『機能のデザイン化』

普段はハードな配線ダクトの並びが、モンドリアンの絵のように見えたり、途中でLEDのラインになったりすると、それはひとつのデザインになってゆく。ハードなもの（配線、コンセント、スイッチダクト）が消えていく。或いは、環境デザインの一部として昇華する



『結界』

異常に低く下ろされた円柱形の天蓋は、商談スペースとして、人をすっぽりと覆い隠すほどに低く設定されている。ある意味関係者以外を寄せ付けない一体感を強調した空間づくりになっている。



『個別化』

テーブルごとの光。気分に合わせて調光したりカラー照明で変化をつけたりできる。フラットな空間でありながら、照明効果で個別的な対応を可能とした可変的ムーディースペース。



『マッピングボックス』

白いスニーカーが一足置かれた四角いウインドウ。プロジェクションマッピングによって、スニーカーの各部位から靴紐まで、デザインやカラーバリエーションが映し出されていく。ビルや壁など大きく映し出すエンターテイメントなパフォーマンスから、実生活の中へとシフトしてきた。360度質感と共にリアル表現が可能なので、色んなアイテムに波及していきそう



『include』

アナログなモノ、既製品、古いもの、自然物、棚壁、機能の中に、新たなものを新たなコトとして組み込んでいく。そうすることで思いもよらない出来事が、豊かな生活に魔法をかけていく。



『多機能性／多動力』

めまぐるしい時代の流れは、一つのことに時間をかけて修行するという美德から、色々なことが同時に平行してできる即効性が普通のコトとなってきた。モノは多機能でフル稼働、人はフル倍速で有効時短


 reporter
IWA I